



東日本大震災津波 岩手県立大学の復興支援

平成25年度実績(平成25年4月～平成25年9月)



はじめに

平成23年3月11日の東日本大震災津波から、2年6ヵ月が過ぎました。岩手県立大学では、災害発生直後から被災地への支援を本学の使命として受け止め、教職員や学生の復興支援活動を継続して取り組んでいます。

本資料は、これら本学の主な復興支援活動の平成25年度の実績（平成25年4月～平成25年9月までの実施状況等）についてとりまとめたものです。

《資料の構成》

1 学生への支援

- (1) 被災学生への経済的支援
- (2) 平成26年度入試に向けた取組

- (5) 学生による支援
- (6) 地域との連携
- (7) 他大学との連携
- (8) 公立大学協会との連携

2 地域社会への貢献

- (1) 各学部、各短期大学部の取組
- (2) 災害復興支援センターの取組
- (3) 地域政策研究センターの取組
- (4) いわての教育及びコミュニティ

形成復興支援事業

3 危機管理対応

- (1) 滝沢キャンパスの状況
- (2) 宮古キャンパスの状況

1 学生への支援

(1) 被災学生への経済的支援

甚大な被害を受けた学部・大学院・短期大学部（盛岡・宮古）に在籍する被災学生等への経済的支援として、入学料・授業料の減免を実施

ア 入学料・授業料の減免

- ① 平成23年度～25年度入学生の入学料を減免
- ② 平成23年度前・後期及び24年度前期・後期の授業料を減免
- ③ 平成25年度・26年度入学生の授業料減免を決定
- ④ 平成25年度前・後期の授業料減免を決定

【減免の内容(平成25年度実績)】

費目	支援措置	支援対象	金額	免除認定者数
入学料	・原則として全額免除 ・詳細については相談内容を踏まえて決定 ・既に納付した後に被災した者に対しては還付	①住居の被災 (全・半壊、大規模半壊、全・半焼、流失) ②学資負担者の死亡 または行方不明	学部・大学院 岩手県内225,600円 岩手県外338,400円 盛岡短大部・宮古短大部 岩手県内135,400円 岩手県外203,000円	※平成25年度入学生 〔学部・大学院〕 36名 (H23: 33名、H24: 34名) 〔盛岡短大部、宮古短大部〕 14名 (H23: 13名、H24: 13名)
授業料	・原則として全額免除 ・詳細については相談内容を踏まえて決定	③世帯収入の著しい減少 ④福島原発事故による立退き等	学部・大学院 前期・後期各267,900円 盛岡短大部・宮古短大部 前期・後期各195,000円	※平成25年度 〔学部・大学院〕 95名 (H23: 217名、H24: 166名) 〔盛岡短大部、宮古短大部〕 25名 (H23: 52名、H24: 42名)

【減免額】

- ・平成25年度入学料 10,807千円 (H23: 10,287千円 H24: 10,175千円)
- ・平成25年度授業料 53,709千円 (H23: 65,535千円、H24: 48,119千円)

(2) 平成26年度入試に向けた取組

① 県立大学オープンキャンパスへのバス運行を支援

7月7日（日）開催のオープンキャンパスへ、被災地の高校からのバス経費を大学が負担（9校14台分）。参加者数2,500人

② 震災特別入試の実施

- ・ 県内高等学校からの要請等を踏まえ、平成24年度入試に創設した震災特別入試について平成26年度入学者選抜においても下記のとおり実施予定。全学部で29名が志願している。

（参考 H23：39名受験、22名合格 H24:40名受験、22名合格、H25:40名受験、22名合格）

対 象：本人又は保護者が震災により被災した県内の高校生

実施学部：岩手県立大学 全学部、盛岡短期大学部、宮古短期大学部

期 日：平成25年10月13日（日）

募集人員：各学部若干名



2 地域社会への貢献

岩手県立大学の復興支援体制

学部・短期大学部

P6 - 8

学部プロジェクト研究など学部特性や、教員の持つ専門性を活かした支援活動を展開

看護学部

社会福祉学部

ソフトウェア情報学部

総合政策学部

盛岡短期大学部

宮古短期大学部

災害復興支援センター（H23.4.5設置）

被災地域の復興を、教職員や学生のボランティア活動、教職員の派遣等を通じて支援することを目的に設置

- ・ボランティアを希望する学生に備えてボランティア事前研修実施、ボランティア保険加入手続（H23～）
- ・ボランティアバスの運行（H23：5回、H24：8回、H25：5回）、活動に必要な物資の提供や必要経費の配分（H23～）
- ・海外の大学との交流活動実施（H23～）

P9-11

地域政策研究センター（H23.4.1設置）

地域との連携を強化し、県民のシンクタンクとしての役割を発揮することを目的に設置

- ・「震災復興研究部門」を設置し、「暮らし」、「産業経済」、「社会・生活基盤」の3分野において15課題の研究を推進（H23～24）
- ・「地域協働研究」として、①教員提案型、②地域提案型（共同研究実施）の2分野において地域課題等を解決するための研究を推進（H24～）

p12-18

連携

学生

学生の活動についてはp21-26

(1) 学部の主な取り組み

看護学部

- 盛岡で活動しているSAVE IWATEと連携し、被災者への健康支援活動を毎月1回実施している。
- 在宅療養者の被災実態と防災教育の取り組みについて岩手県難病・疾病団体連絡協議会と共に調査を行い、課題や対応策などを明らかにした。
- 岩手県助産師会と連携し、被災地域の母子サロンの運営方法や成果の広報など学術的な支援活動を実施している。
- 被災後に糖尿病患者のセルフケア行動に及ぼした影響を明らかにするとともに看護師の療養指導の支援を継続して実施している。

社会福祉学部

- 大船渡地区地域総合ケアシステムモデル事業
被災地地域住民の保健・医療・福祉・生活支援等のトータルな支援システムの構築を目指し、県、県社協、県内福祉関係職能団体、気仙地方の医師、看護師、生活支援相談員等との協働事業を実施している。
- 社会福祉学部プロジェクト研究
 - ①岩手県における東日本沿岸被災地の社会福祉施設実態等調査(継続)
 - ②東日本大震災被災地域住民のこころの健康に関する研究-釜石市民の精神的健康の実態把握とその支援(2年目)
 - ③被災地におけるケアラーの実態調査研究(継続)

(1) 学部の主な取り組み

ソフトウェア情報学部

- ・ 災害コミュニケーションに関わる研究
- ・ 社会情報システム学アプローチによる震災復興・防災支援の研究

総合政策学部

- ・ 森の積み木教室：大槌の幼稚園で1回実施。今年度もう1回実施予定。西和賀の間伐材でつくった積み木を使用、林業振興の仕組みづくりをめざす取り組み。
- ・ 緑のカーテン：大槌と釜石で実施（昨年度から継続実施）
- ・ 学部プロジェクト外として復興研究を継続実施。その成果を、11月10日(日)にアイーナ県民プラザでパネル展示+カフェ方式で公開する。

盛岡短期大学部

- ・ 4テーマ（住宅、文化的資源調査、外国人支援、食記録）から成る学部プロジェクト研究による復興支援に関わる調査研究を実施。
- ①宮古地域の地元企業によるパネル化構法住宅の屋根の施工合理化および地域材活用に関する研究
- ②「三陸沿岸被災集落における統合の絆としての文化的共有資源・伝承の現状調査」
—大槌町・山田町を中心に—
- ③東日本大震災における在住外国人支援の実態調査
- ④震災記念誌『東日本大震災下における食事提供の経験とその問題点(仮)』の作成と発行
- ・ オハイオ大学との復興支援活動を伴う交流

(1) 学部の主な取り組み

宮古短期大学部

• 復興研究

震災復興関連の研究成果を、それぞれの教員が所属している学会で報告した。

①震災後の三陸沿岸公共交通機関の復旧状況と観光

- 時期：平成25年6月22日
- 場所：日本観光学会第103回全国大会（愛知大学名古屋キャンパス）

②三陸地域情報システムの構築について

- 時期：平成25年8月23日
- 場所：平成25年度電気関係学会東北支部連合大会（会津大学）

• 水産加工業の再編強化に向けた勉強会の立上げ（7月）

水産加工業者、宮古市、本学部教員の3者による、水産加工業の再編強化にむけた勉強会を立ち上げた。

• 宮古市観光産学公連携基本協定の締結に向けての準備作業等の開始（7月～）

宮古市観光協会・宮古市・本学の3者による観光連携協定の締結に向けて準備作業等を進めている。
（11月に協定締結の予定）

• 地域総合講座（4月～6月 10講座）

地域の様々な分野で活躍している方々を講師に迎え、地域振興・震災復興等に関する講義を学生へ実施した。

①山本宮古市長 「宮古市復興に向けて」

②草野県中核観光コーディネーター 「地域ブランド創造」ー誰でもできる地域貢献ー ほか

(2) 災害復興支援センターの取組 (ボランティア活動等への支援)

①組織体制

災害復興支援センター
(H23.4設置)

センター長

副センター長

復興支援員

看護学部、社会福祉学部、
ソフトウェア情報学部、総合政策学部、
盛岡短期大学部、宮古短期大学部

助言・調整等

運 営
委 員 会

連携

岩手県立大学 学生ボランティアセンター

②活動状況

H25年度実績(9月末現在)

必要な物資の調達・貸与

腕章、ビブス、ヘルメットなどの貸出し

活動計画受付及び経費の支援

・11件受付 ・1,158千円支援

ボランティア活動保険への加入手続き

・ボランティア活動保険への加入
205人

ボランティアバスの運行、
オハイオ大学との交流活動実施

・ボランティアバス5回運行、参加者118名(教職員15名含む)
・オハイオ大学との交流活動実施、本学参加者32名(教職員12名含む)
※詳細は次ページ

寄付金の受入、活用

平成25年度受入 1件、3,000千円

活動事例① ボランティアバスの運行

1 運行日

①6月1日/②6月8日/③6月23日/④7月27日/⑤9月7日

2 ボランティアの活動場所

- ① グリーンピア三陸みやこ（宮古市田老地区）
- ③ 山田町内仮設団地（山田町内3地区）
- ②④⑤ オートキャンプ場モビリア（陸前高田市内）

3 ボランティア活動の内容及び参加者

- ① しょいかごウォーキング：清掃活動（参加者 学生15名、教職員等5名）
- ② ペットボトル水の荷降し、運搬、配付（参加者 学生10名、教職員等19名）
- ③ 花苗の植え付け作業、茶話会（参加者 学生26名）
- ④ ペットボトル水の荷降し、運搬、配付（参加者 学生 3名、教職員等18名）
- ⑤ ペットボトル水の荷降し、運搬、配付（参加者 学生 7名、教職員等15名）



活動事例② 海外の大学等との連携

～オハイオ大学・本庄国際奨学財団と岩手県立大学の学生たちが共に活動～

平成23年度から、日本の大学へ短期留学中のオハイオ大学学生・同大関係者が、本学の学生と交流及び連携してボランティア活動を実施。

平成25年度は水ボラ活動（ペットボトル水の配布活動）へペットボトル水を無償提供している、本庄国際奨学財団の奨学生等も加わっての活動。

1. 参加者

- (1) 本学グループ 32名（うち、学生20名）
- (2) オハイオ大学グループ 22名（うち、学生16名）
- (3) 本庄国際奨学財団 33名（うち、学生29名）※9/28から参加
- (4) 高田高校グループ 20名（うち、学生16名）※9/28のみ参加

2. 活動日程

9月27日（金）

- ・事前学習（「水ボラ活動の概要」、「大槌町の復興状況」を聴講）
- ・大槌町でのボランティア活動（「菜の花プロジェクト」大槌町内河川敷で石拾い、肥料・菜の花の種まき）

9月28日（土）

- ・全体交流会（「各参加団体の紹介」、「お茶セミナー」を通じて交流）
- ・陸前高田市でボランティア活動（「水ボラ活動」ペットボトル水を仮設住宅へ各戸配布、語り部による体験談聴講等）

9月29日（日）・陸前高田市でボランティア活動（「水ボラ活動」ペットボトル水を世帯配布・交流）



(3) 地域政策研究センターの取組

①地域政策研究センターの設置と概要

- ◇ 地域との連携を強化し、県民のシンクタンクとしての役割を發揮することを目的に、平成23年4月に設置。
- ◇ 3.11東日本大震災により、地域政策研究センターの1部門として、4/28に震災復興研究部門を設置。
平成23～24年の2カ年度にわたり、「暮らし」、「産業経済」、「社会・生活基盤」の3分野において15課題の研究を推進。

暮らし分野【コミュニティの絆を活かした暮らしの創造と再建】4課題

産業経済分野【地域特性を踏まえた産業経済の再建】6課題

社会・生活基盤分野【災害に強いまちづくりとインフラ・システム整備】5課題

- ◇ 平成24年度からは、「地域協働研究」として、学内教員と地域団体等(県・市町村等の公共団体、地域団体、NPO等)との協働により、地域課題等を解決するための研究を対象に震災復興研究及び一般課題研究を推進。

教員提案型【学内教員が地域団体等を行う共同研究を対象、地域ニーズに対応した研究を推進】

震災復興関係の研究：平成24年度は8課題を実施した。平成25年度前期は8課題を実施中。

地域提案型【地域団体等を対象に地域課題を公募、学内教員とのマッチングを経て研究を推進】

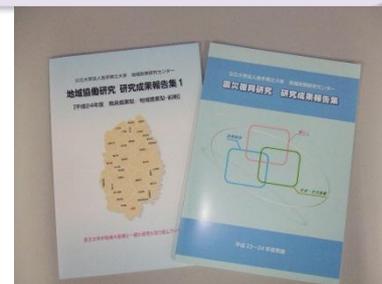
震災復興関係の研究：平成24年度は前期9課題を実施した。後期3課題は平成25年10月終了予定。

平成25年度前期は3課題を実施中。

- ◇ 平成24年度末で完了した「震災復興研究」および「地域協働研究(平成24年度教員提案型/地域提案型・前期)」について、2冊の研究成果報告集を発行した。

①「震災復興研究 研究成果報告集」

②「地域協働研究 研究成果報告集1【平成24年度 教員提案型/地域提案型・前期】」



(3) 地域政策研究センターの取組

② 震災復興研究

暮らし分野、産業経済分野、社会・生活基盤分野の計15課題の研究を推進 (期間：H23.9～H25.3)

課題名

代表者名 (学部)

- | 課題名 | 代表者名 (学部) |
|---|-----------------|
| ○「復興計画策定と新たな地域社会構築のための多縁コミュニティ形成に向けた実践的研究」 | 総合政策 教授 倉原 宗孝 |
| ○「被災地における社会的孤立の防止と生活支援型コミュニティづくり」 | 社会福祉 教授 小川 晃子 |
| ○「野田村被災者のイメージマップによる参加的な食の再構築ー岩手県民の今後の食生活の方向性をデザインする試み」 | 盛岡短期大 准教授 乙木 隆子 |
| ○「被災地域における複合型福祉拠点に関する基礎的研究」 | 社会福祉 教授 宮城 好郎 |
| ○「被災地における経済復興への課題
-中小企業の経済的困難の現状分析を通じて-」 | 総合政策 講師 金子 友裕 |
| ○「岩手県における水産業の復旧・復興を巡る利害関係にもとづく水産特区
・漁港再編に対する批判的研究-漁家、漁協、国・県・市町等の実態分析を中心に-」 | 総合政策 准教授 栗田 但馬 |
| ○「岩手県沿岸地域における観光業の復興及び創職に関する研究」 | 総合政策 教授 吉野 英岐 |
| ○「被災地における「ものづくり産業」の再編と新規立地の可能性」 | 宮古短期大 教授 植田 眞弘 |
| ○「被災地従業員のメンタルヘルス支援による産業経済の再建」 | 社会福祉 教授 青木 慎一郎 |
| ○「水産業クラスターの復旧・復興条件の解明」 | 総合政策 講師 新田 義修 |
| ○「三陸復興国立公園・三陸ジオパーク指定のための震災遺産等の保全、国立公園
利用施設計画（インフラ）及び震災語り部（ジオパークガイド）育成に関する研究」 | 総合政策 教授 渋谷 晃太郎 |
| ○「被災地の復興過程における住民意識の研究」 | 総合政策 准教授 阿部 晃士 |
| ○「中・長期的視点に立った地域復興・防災教育プログラムの開発と実践」 | 総合政策 准教授 伊藤 英之 |
| ○「仮設住宅の改善および仮設住宅地におけるまちづくり提案」 | 社会福祉 教授 狩野 徹 |
| ○「在宅療養者の被災実態と防災教育の取り組みの方向性」 | 看護 准教授 上林 美保子 |

暮らし

産業経済

社会・生活基盤

(3) 地域政策研究センターの取組

③ 地域協働研究

平成24年度 教員提案型 (期間：H24.7～H25.3)

課題名

代表者名 (学部)

- | | |
|--|------------------------------|
| ○ 「「見守り」を核とするICTを活用した医療・福祉連携策の検討」 | 社会福祉 教授 小川 晃子 |
| ○ 「『語り部くん』携帯端末による観光客行動自動集計
及び地域経済振興の研究」 | ソフトウェア情報
准教授 蔡 大維 |
| ○ 「東日本大震災被災地域住民のこころの健康に関する研究(1)
ー釜石市健康調査の分析による被災後の市民の精神的健康の実態把握ー」 | 社会福祉 准教授 中谷 敬明 |
| ○ 「若者の支援を通じた社会起業家育成機会の創造とシステム構築」 | 総合政策 准教授 西出 順郎 |
| ○ 「健康支援の専門家である県内看護師がつくる
被災地住民の居場所づくりに関する実践研究」 | 看護 教授 三浦 まゆみ |
| ○ 「岩手県の震災復興状況に関する
長期モニタリング調査と質的情報の解析手法の開発」 | 総合政策 教授 高嶋 裕一 |
| ○ 「津波の記憶を忘れないためのWeb上の津波資料館の構築」 | ソフトウェア情報 教授 村山 優子 |
| ○ 「ソーシャルメディアを対象とした大震災に関する
被災女性ニーズ抽出の研究」 | ソフトウェア情報
准教授 バサビ・チャクラボルティ |

(3) 地域政策研究センターの取組

③ 地域協働研究

平成24年度 地域提案型【前期】

(期間：H24.8～H25.3)

課題名	提案者	代表者名 (学部)
○「岩手沿岸における震災復興ビジネスの成果と限界 (岩手県における人口の社会減対策の強化 に向けた課題整理)」	岩手県	総合政策 准教授 栗田 但馬
○「被災地における絶滅危惧植物 ミズアオイとピオトープの再生」	NPO法人AEA	総合政策 教授 平塚 明
○「岩手県災害派遣福祉チームについて」	岩手県 社会福祉協議会	社会福祉 准教授 都築 光一
○「復興支援活動における行政と 民間の協働のあり方に関する研究」	一般社団法人東日本絆 コーディネーションセンター	総合政策 准教授 西出 順郎
○「被災地の復興まちづくりにおける ユニバーサルデザインの課題について」	岩手県	社会福祉 教授 狩野 徹
○「子ども・子育て家庭支援に向けた 地域連携に関する研究」	洋野町	社会福祉 准教授 山本 克彦
○「いわて三陸オリジナルの ジオツーリズムプログラムの開発と実践」	いわて三陸ジオパーク 推進協議会	総合政策 准教授 伊藤 英之
○「サポート拠点の効果的な整備及び運営について」	大槌町	社会福祉 教授 狩野 徹
○「コールセンターを核とした地域連携と地域振興」	洋野町	宮古短期大 准教授 岩田 智

(3) 地域政策研究センターの取組

③ 地域協働研究

平成24年度 地域提案型【後期】

(期間：H24.11～H25.10)

課題名

提案者

代表者名(学部)

○「被災地における交流事業への高齢者参加促進システムの有効性検証
～予約・備忘通知機能を活用して～」

株式会社ピーぷる

社会福祉 教授 小川 晃子

○「東日本大震災津波における福祉避難所の状況と課題について」

岩手県

社会福祉 准教授 細田 重憲

○「釜石におけるスポーツイベントに向けたラグビー民族誌の作成」

釜石シーウェイブスRFC

盛岡短期大 准教授 原 英子

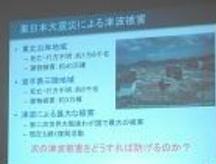
教員提案型

・「津波の記憶を忘れないためのWeb上の津波資料館の構築」 村山教授



地域提案型

・「被災地における絶滅危惧植物ミズアオイとビオトープの再生」 平塚教授



平成三陸海岸大津波資料館



(3) 地域政策研究センターの取組

③ 地域協働研究

平成25年度 教員提案型【前期】

(期間：H25.5～H26.3)

課題名

代表者名 (学部)

- | | | | |
|---|----------|-----|--------|
| ○「難病患者の災害時支援及び防災対策に関する研究」 | 看護 | 助手 | 藤村史穂子 |
| ○「被災地従業員のメンタルヘルス支援による産業経済の再建」 | 社会福祉 | 教授 | 青木慎一郎 |
| ○「東日本大震災被災地域住民のこころの健康に関する研究(2)
ー釜石市健康調査の分析による被災後の市民の精神的健康の実態把握ー」 | 社会福祉 | 准教授 | 中谷 敬明 |
| ○「HF帯を活用した被災者情報伝送システムの開発」 | ソフトウェア情報 | 講師 | 瀬川典久 |
| ○「勤務所属施設をもたないベテラン看護師の
被災地住民への健康支援とそのプロセスに関する研究」 | 看護 | 教授 | 三浦 まゆみ |
| ○「情報タイムカプセルを利用した持続可能な津波資料館の構築」 | ソフトウェア情報 | 教授 | 村山 優子 |
| ○「三陸復興国立公園及び東北海岸トレイルの漁船等
を活用した多面的な利用推進に関する研究」 | 総合政策 | 教授 | 渋谷晃太郎 |
| ○「漁協の担い手(漁船漁業・養殖業)育成に関する研究」 | 総合政策 | 准教授 | 新田 義修 |

(3) 地域政策研究センターの取組

③ 地域協働研究

平成25年度 地域提案型【前期】

(期間：H25.6～H26.3)

課題名

提案者

代表者名（学部）

○「震災派遣福祉チーム設置
に関する研究について」

岩手県社会福祉協議会

社会福祉 准教授 都築 光一

○「東日本大震災における3次元復興計画
の普及化による復興支援
ー3D復興計画モデルによる復興支援ー」

いわてデジタルエンジニア
育成センター

ソフトウェア情報
教授 土井 章男

○「被災地の復興まちづくりにおける
ユニバーサルデザインの実践について」

岩手県

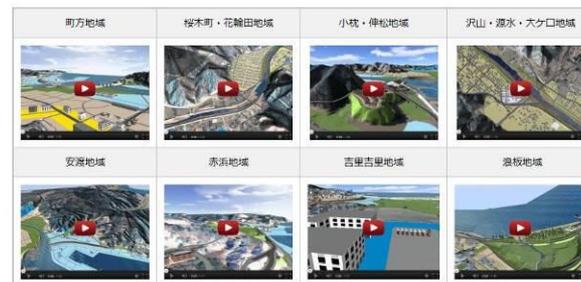
社会福祉 教授 狩野 徹

○大槌町復興イメージ3D動画



教員提案型

・「勤務所属施設をもたないベテラン看護師の被災地住民への健康支援とそのプロセスに関する研究」 三浦教授



地域提案型

・「東日本大震災における3次元復興計画の普及化による復興支援」 土井教授

(4) いわたの教育及びコミュニティ形成復興支援事業

①学生ボランティアを中心とした地域コミュニティ復興支援

文部科学省大学改革推進等補助金(大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業)による支援

- 震災直後、岩手県内では若いボランティアが不足。一方、学生たちは、移動手段や宿泊場所・食事の確保の難しさから活動に参加できずにいた。こうした中で、本学の学生ボランティアセンターが立ち上がり、NPO法人等の協力を得て「いわてGINGA-NETプロジェクト」を結成。これにより、これまでにない規模で、全国の学生ボランティアによる被災地支援活動が展開された。
- 県立大学では平成23年度から国の補助をうけ、「いわての教育及びコミュニティ形成復興支援事業」を実施。このような学生ボランティアによる被災地でのコミュニティ支援や学習支援、学生ボランティアの育成等を支援している。
- なお、「いわてGINGA-NETプロジェクト」の成果を引き継ぎ、平成24年2月に本学の学生有志を中心に「特定非営利活動法人いわてGINGA-NET」が発足し、被災地のコミュニティ支援活動に主体的に取り組んでいる。県立大学は上記補助事業により、引き続き同法人の活動を支援している。
- 同法人は、学生の夏季休業期間を活用し、平成25年8月～9月の5週間にわたり「夏銀河2013」を実施。全国47の国公立大学から、延べ1,842名の学生ボランティアが集結し、釜石市を中心として岩手県沿岸南部の応急仮設住宅でのサロン活動、学校等での子どもの学習支援、イベント支援、漁業支援等、被災地の多様化したニーズに対応した。
- 今後、同法人は、学生の冬季及び春季休業期間にも活動予定であり、県立大学は上記補助事業により引き続き同法人の活動を支援する。



(4) いわたの教育及びコミュニティ形成復興支援事業

②学生ボランティアによる小中高校向け学習支援・居住支援

文部科学省大学改革推進等補助金(大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業)による支援

- ・ 県立大学は、国の補助による「いわたの教育及びコミュニティ形成復興支援事業」を活用して、「一般社団法人子どものエンパワメントいわた」による、心のケアと同時に進学への意欲や進路決定、夢の実現へ向かうことを目的とした、被災地の子どもたちの居場所づくり、大学生による傾聴が可能な自学自習方式の学習支援等の活動の支援を行っている。
- ・ 平成25年度も昨年度に引き続き、これまでの取組みを継続しつつ、地域のニーズを捉えて箇所を増して実施している。9月末現在の活動状況は、5市町において、利用生徒数は延べ5,498名にのぼり、派遣した支援相談員は延べ1,603名(うち岩手県立大学の学生ボランティア延べ107名)となっている。

陸前高田市 第一中、横田中、米崎小、広田小	【活動期間】平成23年11月～実施中 【対象】中高生 【活動形態】週3～6回(平日19時～21時、日曜日9時～15時 or 9時～17時) ・学習支援相談員9名が交替で常駐 ・毎週日曜日には岩手県立大の学生ボランティアによるサポートを継続
宮古市 鍬ヶ崎ODENSE2、グリーンピア三陸みやこ仮設住宅、崎山自治会館、佐原地区センター、駒形通公民館	【活動期間】平成24年2月～実施中 【対象】小中高生 【活動形態】週2～3回(平日16時～18時 or 17時～20時 or 17時～21時、土・日曜日9時～15時 or 10時～15時) ・学習支援相談員10名が交替で常駐 ・岩手県立大学の学生ボランティアによるサポートを継続
釜石市 唐丹中、東中、若葉教室	【活動期間】平成25年1月～実施中 【対象】中学生 【活動形態】週2～3回(平日15時～17時 or 16時～17時 or 10時～12時半) ・学習支援相談員4名が交替で常駐
大船渡市 大立仮設住宅、越喜来地区(杉下・甫嶺、仲崎浜仮設住宅)、大田仮設住宅	【活動期間】平成24年7月～実施中 【対象】小中高生 【活動形態】週1～3回(平日19時～21時 or 18時～20時、日曜日9時～15時) ・学習支援相談員7名が交替で常駐 ・毎週日曜日には岩手県立大の学生ボランティアによるサポートを継続
住田町 世田米中	【活動期間】平成25年4月～実施中 【対象】中学生 【活動形態】週2回(平日19時～21時) ・学習支援相談員3名が交替で常駐



(5) 学生による支援

① 学生ボランティアセンター

《支援に取り組む学生団体が集合、復興cafeで活発に交流》

4月27日、学生ボランティアセンター×復興girls&boysの企画による「復興cafe」を本学食堂を会場に開催。岩手県内の復興に携わる学生団体を集め、復興支援活動の情報共有を目的とし、参加7団体による活動報告やブースでのトークが行われた。コーヒーとシフォンケーキも販売され、カフェスタイルを楽しみながら、「岩手を、いや世界を変える」と意気込む学生達が活動への理解を深めることができるイベントで、70名を超える来場があった。



《宮古市鍬ヶ先地区での学習支援》

24年度に引き続き、25年度は4月23日、5月25日に宮古市鍬ヶ先地区の「ODENSE2号」で子どもたちの学習支援を行う「みやこらぼ」というプロジェクトを実施。



《山田町民と滝沢村民との交流事業》

6月23日、滝沢川前自治会住民と山田町の仮設住宅に行き、チューリップの球根の配布、お茶っこサロン活動を実施。地域の方に豚汁を振舞っていただき地域住民との交流を展開。11月24日は、「チャグチャグ馬コ」の人形制作による交流を予定。

《いわてGINGA-NET 夏銀河に協力》

8月21日～9月24日の間、いわてGINGA-NETの夏銀河2013にセンターのスタッフ数人がキャストとして参加。プロジェクト発足以降継続的に協力し、いわてGINGA-NETの運営を行っている。



《全国公立大学学生シンポジウムへの参加》

10月12日、本学で開催された全国公立大学学生大会で「公立大学の地域貢献」という観点から各公立大学で地域貢献の取組を行っている団体を集め、ワークショップの交流や活動事例を発表する予定。センターは各団体の受入体制の整備も実施予定。

(5) 学生による支援

② 宮古短期大学部学生赤十字奉仕団 (JRC) (設立:平成20年度)

- 平成20年度の活動開始以来、宮古市社会福祉協議会との緊密な連携のもと、地域住民の要請に応えるよう奉仕活動を実施している。
- 東日本大震災発生後は、被災者支援の活動を主として、側溝の海水や泥の清掃、個人宅の片付け、支援物資の仕分、仮設住宅のサロン運営の補助やシチューなどのお振舞い、独居高齢者の孤立を防ぐ訪問活動や生活再建への協働など地域の復興に向けたボランティア活動に従事。
- 今年度（前期）は、主に週末、宮古市内各所において、
①児童・生徒の学習支援、②子どもパーク、③日本赤十字社被災地児童生徒支援プログラム「サマーキャンプ2013 inクロスヴィレッジ」参加、④食事提供を主とした地域の被災者との交流、⑤文化庁・国立国語研究所による危機的状況にある被災地方言の資料収集補助、⑥宮古街なか復興市など復興行事運営補助、⑦高齢者保健施設行事補助、その他、学ぶ防災への参加や、地域における支援活動など、赤十字精神のもと支援活動に従事している。
- (写真リスト) ア 田老鎮魂の祈り運営補助
イ 学ぶ防災 (宮古市田老地区)
ウ 被災地方言の資料収集補助



(5) 学生による支援

③ 復興girls & boys*

《被災地企業の応援》

「復興girls & boys*」は、平成23年度に総合政策学部的女子学生9人組から始まり、平成24度からは男子学生も加わり、名称を変更し、現在は21名。

平成23年度に学生個々の就業力向上を目指す「IPU-Eプロジェクト」に採択され、大学公認プロジェクトとして活動。沿岸部の生活の糧となる仕事の復興の手助けをしたい思いから、現地で企業などと相談を重ねて商品を開発。23年度の「社会人基礎力育成グランプリ大会」において準大賞受賞した。

25年度は、沿岸と内陸の企業をつなぎ、復興支援を目的としたコロッケ「海の幸ろっけ」を、「復興girls & boys*」と「ゴウちゃんのコロッケ屋」「釜石高橋鮮魚店」の三団体で考案・開発し、各地のイベントなどで商品の販売PRに努めている。また、8月には『岩手みらいトークサミット』を主催し、“温度差”をテーマに、内陸と沿岸の若者たちがディスカッションを行い、解決の糸口を探るなど、意欲的に活動を続けている。



(5) 学生による支援

④ 看護学部 カッキー's

《仮設住宅入居者の健康支援》

山田町の保健師をしている先輩からボランティア不足の訴えを聞き、学生有志により23年11月にボランティアチームを発足し、心や健康サポートをするサロン活動を実施している。山田町の特産「牡蠣」にちなんで「カッキー's」と命名。

毎月定期的に仮設住宅等を訪問し、仮設入居者の心理・健康支援活動を行っている。マッサージ、血圧測定、カッキー's独自のストレッチ運動、各種健康講座のほか、さんさ踊り、ハロウィンパーティー等季節のイベントも開催し、地域住民との交流を深めている。

25年6月には「医療職を目指す者のつどい」を開催。宮古、大槌、山田、釜石の沿岸地域の高校生を対象に看護師、保健師、助産師からの講演、グループワークを実施。未来の医療職、復興につながる活動を行った。

平成24・25年度に学生の就業力向上を目指す「I P U - Eプロジェクト」に採択され、地区診断、看護学の専門知識を活かした活動を行っており、住民の健康維持を支援し、看護学部ならではの支援で長期的に被災地を支えている。



(5) 学生による支援

⑤ 学生 & 教員によるボランティア活動

《飲料水ペットボトルの配布 (通称：水ボラ)》

活動を始めて3年目を迎え、4月からは本庄国際奨学財団留学生（株伊藤園が創設した財団。留学生が活動に加わる他、現在、水やお茶のペットボトルを本学に無償提供）とともに、月に1～2回、陸前高田市内全ての仮設団地と広田半島地域で活動を継続している。

復興が遅れている現状ではまだ支援の手を引く時ではないと考え、沿岸地域の方々に寄り添う気持ちを持ち続けることが大切と感じている。

一軒一軒お訪ねした時に、挨拶を交わしたり、話をしたりすることで少しでも外部との交流を絶やさない環境をお年寄りのまわりに作れたらよいと考え、学生 & 教員で定期的に活動している。



本庄財団初参加
桜満開の矢作中仮設団地にて



暑いですが、水分補給してますか？
モビリア仮設団地にて



復興カフェで新人さん勧誘
水ボラ重量物持ち上げ体験



お友達が沢山出来ました！
米崎小仮設団地にて

(5) 学生による支援

⑥ 学生 & 教員によるボランティア活動

《華道部の活動》

本学華道部顧問と本学学生が県立大船渡東高校華道部とともに仮設住宅や大船渡市デイサービスセンターを訪問し、「被災地で暮らす人たちに生け花で心のケアを」と生け花教室を企画し、23年度から継続して生け花による被災地支援活動を実施している。利用者からは、「心に潤いをもたらした」「花の向きで趣きが変わる、これからの生き方も別な向き方を考え楽しく暮らしたい」といった感想が寄せられている。

25年9月には、大船渡東高等学校華道部等と連携して大船渡市社会福祉協議会を会場に「大船渡市民交流いけばな展」を開催した。仮設住宅の住民等を送迎して生け花教室を開催し会場を鮮やかに彩った。また、本学のハンドマッサージサークル KIPU*RaboやいわてGINGA-NETのボランティアも参加し、生け花展やハンドマッサージ、お茶&お菓子による交流を行った。



(6) 地域との連携

① 平成25年度岩手県立大学研究成果発表会の開催

ア 本学の各学部及びセンター等の取り組みと研究成果を広く知っていただくため、「震災復興・地域貢献」をテーマとし、9月21日(土) 9時から「いわて県民情報交流センター（アイーナ）」で開催

イ 内容

◇基調講演

「教育、研究、社会貢献の融合に向けて」（副学長 齋藤俊明）

◇講演発表

- ・一般講演 看護学部 教授 上林美保子 他15講演
- ・i-MOS講演 ソフトウェア情報学部 准教授 新井義和 他10講演
- ・地政研講演 社会福祉学部 教授 小川晃子 他14講演

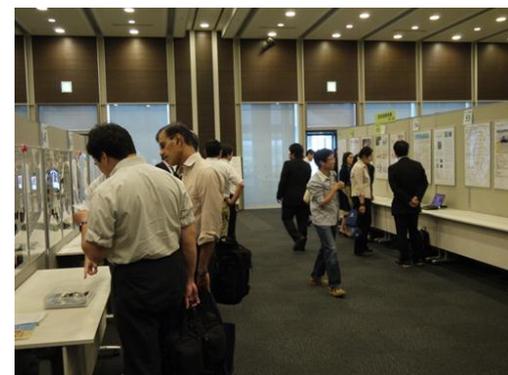
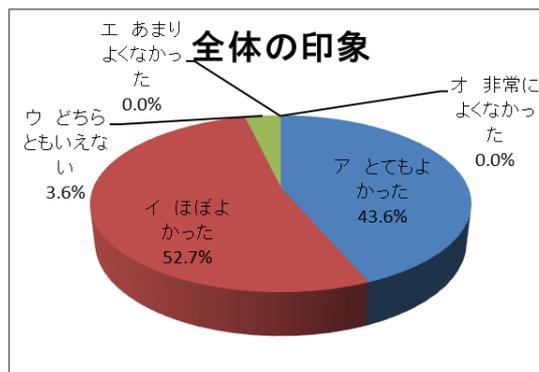
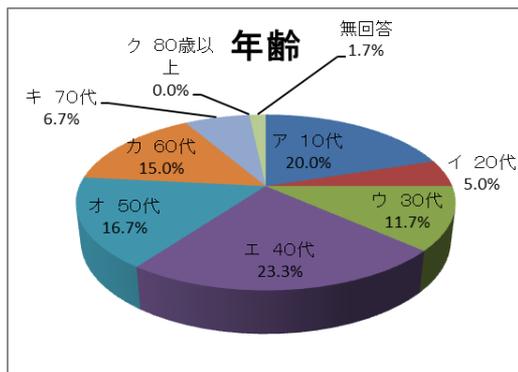
◇パネル展示

パネル展示 94課題

（一般：33課題、i-MOS：31課題、地政研：30課題）

ウ 来場者数：約300人

エ 来場者アンケート結果（抜粋）



(6) 地域との連携

② 岩手県立大学公開講座・地区講座の実施

◇ 平成25年度の公開講座を「復興へ歩み続けるいわて」をテーマに7講座開催

講座	日時	講師	テーマ	受講者数
講座1	7/27	三陸鉄道株式会社 代表取締役社長 望月 正彦 氏	三陸鉄道 復旧・復興の取組み ～鉄道の復活で笑顔をつなぐ～	101名
講座2	8/31	総合政策学部 准教授 新田 義修	復興へ歩み続ける「がんばる水産業」	101名
講座3	8/31	宮古短期大学部 教授 宮井 久男	震災後の岩手観光の方向性	112名
講座4	9/7	社会福祉学部 非常勤講師 細田 重憲	東日本大震災時における福祉避難所の活動 ～いわゆる「災害弱者」をどのように支援したか～	104名
講座5	9/7	看護学部 教授 三浦 まゆみ	ベテランの退職看護師有志とともに歩んだ震災一年後 からの健康支援活動	87名
講座6	9/28	盛岡短期大学部 准教授 原 英子	2019年ラグビーワールドカップを釜石で！ ～ラグビー民俗誌の作成から見えてきた地域のラグビー 土壌を考える～	74名
講座7	9/28	一般社団法人SAVE IWATE 事務局長 金野 万里 氏	SAVE IWATEの活動 ～被災者支援から新しい地域・社会支援へ～	79名
計				658名

(6) 地域との連携

③ 「岩手県立大学復興サポートオフィス」の設置

- 沿岸地区での復興支援活動を行う拠点として、宮古市田老総合事務所に「復興サポートオフィス田老」を設置し平成24年12月20日開所式を実施
- 平成25年5月11日には釜石市平田の釜石・大槌産業育成センターに「復興サポートオフィス釜石」を設置

サポートオフィスの活動内容

◇本学教員の研究活動

大規模災害時にも繋がる耐故障性を考慮した情報通信インフラの実験基地局として利用するとともに、通常時の三陸沿岸地域に有効なICT(情報通信技術)の拠点として展開。

◇震災復興等における本学教員の活動

現地関係者(団体)等との打合せや現地での活動のまとめ等の作業を行う場として活用。

◇ボランティア等を行う学生の活動拠点

ボランティア活動を行うにあたっての事前の打合せや、事後の振り返り等を行う場として活用。



(6) 地域との連携

④ 「三陸復興キャラバン出前! ブログ教室」の開催

- ◇三陸復興キャラバン出前! ブログ教室と題し、沿岸各地区(普代・宮古・釜石)で教室を開催し、テキストを元に講習を行い、各自思い思いのブログを作成した。

○釜石地区(於 釜石市平田 岩手県立大学釜石サテライト)

日時:平成25年8月17日(土) 13:00~15:30

講師:長岡技術科学大学教授 山崎克之 氏

参加者:11名

○宮古地区(於 宮古市末広町 街なか交流施設りあす亭)

日時 :平成25年8月24日(土) 13:00~15:30

講師 :地域連携本部 大橋産学連携コーディネーター

参加者:15名

○普代地区(於 下閉伊郡普代村 普代村役場会議室)

日時 :平成25年8月31日(土) 13:00~15:30

会場 :下閉伊郡普代村 普代村役場 会議室

講師 :地域連携本部 大橋産学連携コーディネーター

参加者:6名



(7) 他大学との連携

① 平成25年度「いわて学」、震災復興をテーマに開講【前期】

◇ 「いわて学」は、岩手県内5大学連携(いわて高等教育コンソーシアム)による共通授業として岩手県立大学が主務校となり平成22年度から開講している。

平成25年度前期は授業のテーマを『「三陸から知るいわて」～いわての復興を考える』として三陸地方の「自然」「歴史」「復興のすがた」などに焦点を当てた講義やグループワークを実施し、5月18日(土)から6月29日(土)までの15回開講、106名(岩大29名、県大49名、富士大1名、盛大27名)が履修した。

回	日	テーマ・内容	講師	会場
1.2	5/18 (土)	9:30~12:45 ○グループワークで考える三陸 ○三陸復興に向けた県のプロジェクト外構想	岩手県立大学 豊島正幸	アイーナ 803
3.4	5/25 (土)	9:30~11:00 ○現地講義に向けて	岩手県立大学 豊島正幸	マリオス 188
		11:15~12:45 ○ペルー・アンデスの大災害で考える共生のかたち	地誌・山岳ライター 高橋正也	
5.6	6/1 (土)	9:30~12:45 ○歴史から知る三陸いわて	盛岡大学 熊谷常正	アイーナ 812
7.8.9	6/8 (土)	9:30~15:00 ○博物館から知る三陸いわて (岩手県立博物館での現地講義)	岩手県立博物館 学芸員	岩手県立博物館
10.1 1 12.1 3	6/15. 16 (土・日)	1泊2日 ○現地で知る三陸いわて (岩泉・宮古・山田・大槌・釜石での現地講義)	岩手県立大学 豊島正幸	宮古 周辺
14	6/29 (土)	9:30~11:00 ○東日本大震災津波からの復興に向けて	岩手県復興局 森達也	アイーナ 803
15		11:15~12:45 ○グループワーク(まとめ)	岩手県立大学 豊島正幸	



(8) 公立大学協会との連携

〔今後実施予定〕

平成25年度第1回公立大学学長会議及び全国公立大学学生大会
(期日：2013.10.12～13/会場：岩手県立大学/主催：公立大学協会)

「全国公立大学学生大会～Link Topos～」が「第1回公立大学学長会議」と日程を合わせて本学を会場に開催され、本学学生を含む全国公立大学学生の参加によるポスターセッション〔テーマ「地域貢献活動」「地域に関する研究活動」「被災地支援・地域防災活動」〕及びワークショップ〔テーマ「学生が考える地域の未来」〕が行われる予定。

その成果は、学長会議のプログラムの一環として開催される特別シンポジウム〔テーマ「大学/学生と地域コミュニティの協働をデザインする～学生の地域（復興支援・防災）活動と、COCがもたらす大学教育の新たな展開～」〕第1部学生ワークショップ成果発表（司会：佐々木民夫高等教育推進センター長）において報告・共有するとともに、続く第2部パネルディスカッション（司会：中村慶久学長）では学長会議と学生大会の参加者が一体となって議論をする。

また、学長会議2日目は希望者が沿岸被災地を視察するとともに、山本正徳宮古市長から「宮古市復興に向けて」と題して講演を頂く予定。

〈視察（予定）先〉

宮古市田老防潮堤、田老観光ホテル（宮古観光協会「学ぶ防災」）、
山田町、大槌町、釜石市（以上車窓視察）

3 危機管理の対応

(1) 滝沢キャンパスの状況

全学的な防災訓練の実施

10月15日に全ての学生、教職員、大学関係者を対象とした防災訓練を実施

平成24年度に引き続き、全学的な防災訓練を実施。訓練は、11時50分に震度6強の地震発生を想定して実施し、学生、教職員等1,530名が参加。訓練内容は主に緊急放送訓練、避難訓練、避難誘導訓練、負傷者救護訓練、安否確認訓練を実施。安否確認訓練は、全学生を対象にインターネットを利用した安否登録を試行し、約7割の学生が安否情報を登録した。

学内の放射線量率の管理

9月に学内主要地点(滝沢29箇所、宮古9箇所)における空間放射線量率を計測したが、文部科学省通知により除染等の速やかな対策をとることが望ましいとされる「1 μ Sv/h以上」に該当する地点はなかった。

また、24年3月から岩手県と連携し本学敷地内にモニタリングポストを設置し、全国の観測網とリンクして、24時間、365日の観測体制がとられている。

非常用物資貯蓄について

学内に防災倉庫を設置し、災害への備えとして災害対応備品・非常食等(救助工具、多機能ラジオ、トランシーバー、アルファ米、非常用保存水等)を配備している。

節電の取組

25年夏期数値目標は設けず、昨年度に定着している節電の取組を基本とし、熱中症予防の観点等から無理のない範囲内で取組を行った。その結果、7月から9月までの3ヶ月におけるピーク時電力は平成22年に対し22.4%の実績、使用電力量20.5%の実績となった。

危機管理マニュアルの整備

平成24年度に、風水害・火山災害対応マニュアル、学生生活に係る危機管理マニュアル、学生の国際交流に係る危機管理マニュアル等6事象を整備。

平成25年度に、大規模地震対応マニュアル、学内情報システム障害対応マニュアルを整備。

その他

- ・地元滝沢村との「大規模停電時等における臨時避難所としての使用に関する協定」を締結(H24.3.27)
- ・非常時の滝沢キャンパス、宮古キャンパス間の通信手段の確保等を目的として衛星携帯電話5台(H23.12)、衛星インターネット(H24.3)を整備済み。

岩手県立大学は、教職員、学生が一丸となり、今後も息の長い復興支援の取組みを推進していきます。



平成25年9月 陸前高田市
オハイオ大学学生との交流活動写真より



平成25年5月 大槌町
菜の花プロジェクト

平成25年6月 宮古市田老町
ボランティアバス活動写真より

